

5－4．七間町通り沿道エリア

1. 現況と課題

子育てに適したまちづくり

周辺のマンション立地に伴い、居住者が増加傾向にあります。この流れを受け、地域では七間町通りに面して子どもの遊び場となる広場を整備する等、子育てに適したまちづくりが掲げられています。



ARTIEの屋根付広場



子どもを対象とした商店街の取組(青空市こどもひろば)

空き店舗や青空駐車場が点在

個性的な店舗が存在するほか、定期的なマルシェの開催等によって道路空間の活用は進んでいますが、空き店舗や青空駐車場、空き地の点在が見受けられます。



道路を活用したマルシェ



アーケードに面する空き地

文化芸術活動の拠点施設が立地

静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター（CCC）が立地しており、文化芸術活動を通じて、かつて映画街として栄えたエンターテインメントの歴史を継承しています。



通りに開かれたCCCのギャラリー



CCCのイベントの様子



高質な道路空間の整備

自然石舗装や特徴的なオブジェやアーケード等によって、高質な道路空間整備が行われています。



連続するアーケード



昭和通り以西の道路空間

道路空間における一体性の欠如

地域が運営管理する路上駐輪場により、放置駐輪は抑制されていますが、腰壁等により道路全体の一体感が阻害され、回遊性が損なわれています。



歩道を分断する路上駐輪場



駐輪場外周の腰壁

使われていない歩道上の設置物

歩道上に設置された水飲み場、公衆電話などの設置物は、老朽化や利用実態の希薄化により、現在ほとんど使われていない状態となっています。



使用されていない公衆電話



閉鎖された水飲み場

増加する子育て世代

周辺には多くの住宅が立地し、近年は子育て世代を中心に居住人口が増加しています。一方で、駅から距離があることから、公共交通機関による行きやすさには課題があります。



多くの親子が集う屋外広場

2. エリアの強み・弱み／まちづくりの着眼点

エリアの現状から、これからのまちづくりを進めるにあたっての強みと弱み、このエリアのまちづくりの着眼点を整理します。

強み

- **個性的・印象的なまちなみ**
個性的な店舗や高質な路面舗装により印象的なまちなみを形成しています。
- **子育てを支える場やサービスの充実にむけたまちづくり**
多様な関係者が議論に参加し、子育てがしやすいまちを目指しています。
- **道路空間の利活用**
道路空間を活用し、人々の交流と地域の活性化に資する様々な取り組みが実施されています。
- **目的地となる場所がある**
映画館やボウリング場等、目的性の高い施設が立地しています。
- **住宅需要が高い**
近年は居住人口が増加傾向にあり、特に子育て世代が増加しています。

弱み

- **建物の老朽化**
築50年以上が経過した建物が多く、更新の必要が生じています。
- **低未利用土地の発生**
空き店舗や青空駐車場、空き地が点在し、店舗の連担が途切れている箇所も見られます。
- **交通結節点*1から離れた立地**
交通結節点から距離があり、公共交通では行きづらい場所になっています。
- **道路上の設置物の老朽化**
歩道上に設置された一部施設の老朽化が進行しています。

まちづくりの着眼点

- 地域による「**子育て世代にやさしいまち**」の機運が向上しているため、その動きをさらに拡大していくことが望まれます。
- 居住に対する需要が高く、特に子育て世代が増加傾向である一方で、地域外からは公共交通で訪れにくいことが課題となっています。そのため、七間町エリアへの**行きやすさを向上させるとともに、地域内の子育て世代が求める機能と来訪者が求める機能双方を取り込み、満足度を高めることが重要**です。
- 地元で取り組んでいる青空市や空き店舗ツアーの取り組みを継続できるよう、**公共空間や沿道建物の新たな活用の検討**を進めます。

*1 交通結節点

電車、バス、タクシーなど、異なる交通手段への乗り換えができる拠点(静岡駅、新静岡駅など)

3.空間特性・歩行者行動から見た特徴

- 人々の認識としても、移動のしやすさの点からも、呉服町通りと並ぶ最も重要な回遊経路となっており、特にイベントのある休日には七間町交差点付近まで人の流れが生まれています。
- 店舗の並びが途切れることは、歩いて楽しむ上でのまちの魅力低下につながるため、主要な回遊経路と認識されていることを十分に活かす土地利用をしていくことが重要です。



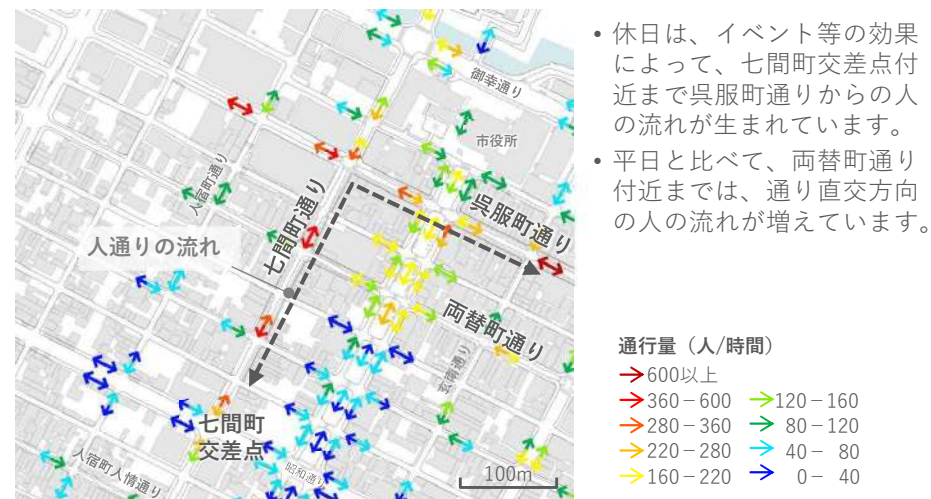
「見つけやすさ・わかりやすさ」



「通り掛かりやすさ」



「店舗の種類」の分布傾向



人通り（通行量）（休日）

4.まちづくりの基本的考え方

第4章で示した「10の方策」における、このエリアで特に重要な位置づけを以下の視点から整理します。

- 旧東海道として、歴史性がより感じられる空間づくりを推進します。
- 札の辻については、かつて高札場が位置した駿府城下の中心的交差点として、人々の認知を向上する工夫を検討します。

● 主な歴史資源

— 旧東海道



おまちの歴史の尊重と継承

- 既存樹木を活かしつつ、登録有形文化財である静岡県庁本館への視線の抜けを大切にします。

● みどりのつながり
● みどりの拠点
● 眺望軸
● 景観上・眺望上重要な建造物



地域の誇りと愛着を育む緑環境・景観づくり

- 七間町通りは、現在と同様、時間帯規制を伴う歩行者専用道路として運用を行います。
- 車両通行止めの時間帯については、周辺の歩行者道路化の動きとあわせて調整を行います。

↔ 通過交通を分担する道路
→ 歩行者専用道路
(時間規制を含む)
→ 歩行者優先道路
→ その他の道路



歩行者と車が共存するための道路の役割分担

- 建替え等が発生した際には、七間町沿道の建物の1階部分は壁面後退は行わず、賑わいの連続性を担保します。
- 呉服町通りから続くアーケードは、雨や日差しを防ぎ、歩行者の快適性を確保する貴重な資源と捉え、継承することを基本とします。

— 1階を壁面後退せず、上層階を壁面後退すべき路線
— 1階を壁面後退すべき路線
— 雨等をしのげる連続した庇や屋根、バルコニー等を設けるべき路線
— 風致地区（絶対高さ：15m）
— 第5種高度地区（絶対高さ：31m）



多様な店舗の連なりと人が心地良く感じる街並みの継承

5.まちづくりの方針

個性豊かな店と文化にふれ、 親子で回遊を楽しむ新しい「七ぶら」文化の醸成

子育て世帯にやさしく、文化を感じられる通りづくり

- 七間町通り沿道建物への子育て支援施設や生活利便施設の導入、こどもの居場所づくり、遊べる公共的空間の創出等を通じて、子育てしやすい空間やサービスを創出します。
- 静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター（CCC）との連携等を通じて、文化・芸術活動を積極的に展開し、活動への子どもの参画も積極的に推進します。
- 子どもを連れて訪れやすいよう、交通の安全性と利便性を向上させます。

遊休不動産の活用や建物更新による店舗等の連続性の確保

- 活用されていない土地や建物の活用を推進し、店舗等による活気の連なりを取り戻します。建物更新が起こった際にも、現在の親しみのある温かい街並みを維持していくために、建物を更新する際の街並みルールを設定を検討します。
- 個性的な店舗が立地する一本裏手の人宿町通りとあわせて魅力的な界わい^{*1}を形成するよう、七間町通りだけでなく、人宿町通り、両者を接続する通りへの商業・交流機能の誘導を検討します。
- 来街者の減少等に対する地域の活力の向上のため、意欲的な空き店舗活用には助成金を交付するなどの持続性を担保する仕組みの構築を検討します。

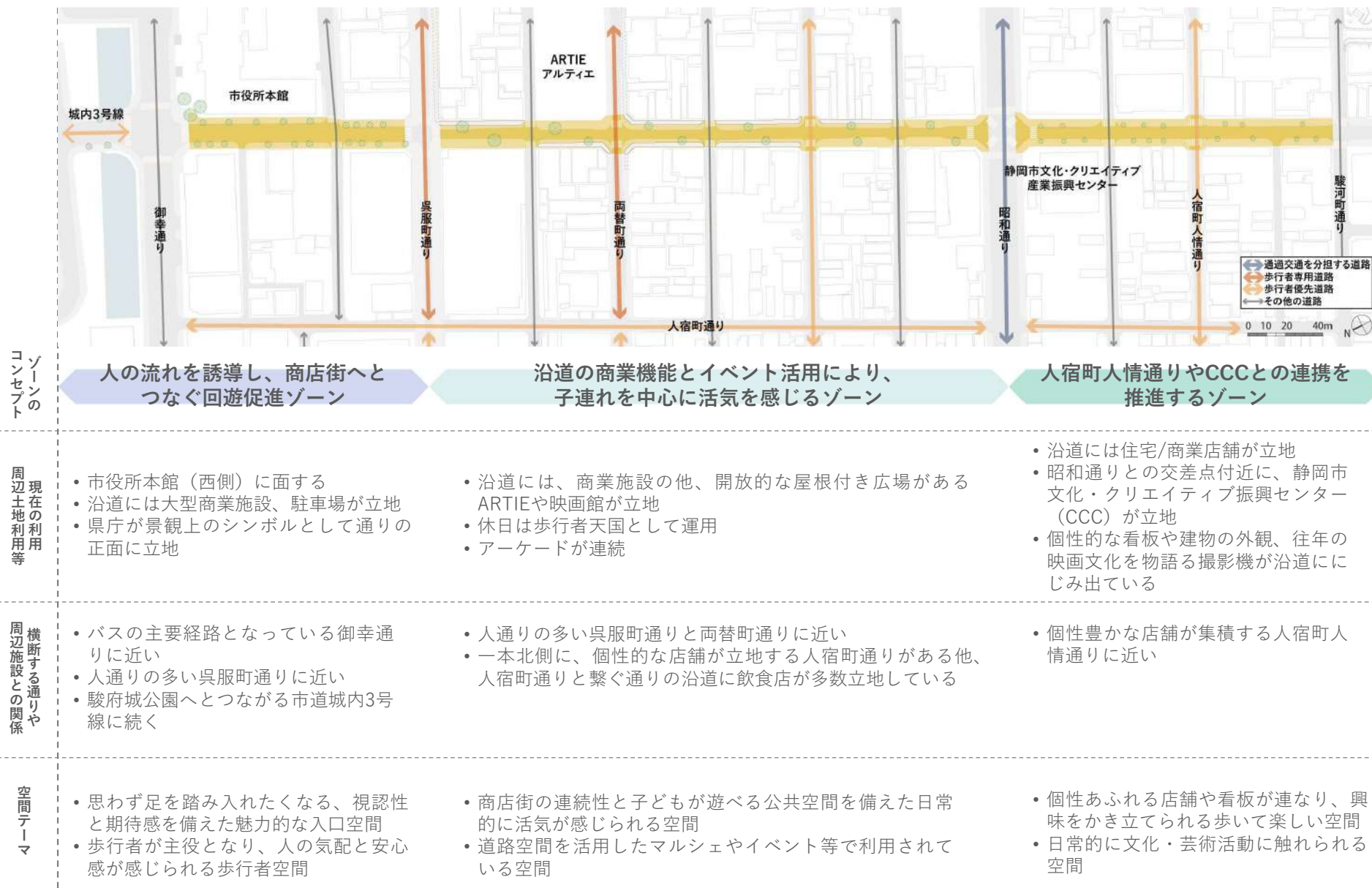
魅力あふれる道路空間の維持と使い勝手の向上

- 個性光る舗装やアーケード、ベンチ・オブジェ等をエリアの大切な財産として守ります。
- 商店街として必要な駐輪機能のあり方を検討し、通り全体を一体的に利用しやすく改善します。あわせて多様なイベントに対応した電源や給水等の設備の充実を図ります。
- ベンチ等と連動したみどりを充実させ、快適な滞留空間を用意します。

^{*1}界わい
特徴のあるまとまった区域

6. ゾーン設定及び空間テーマ

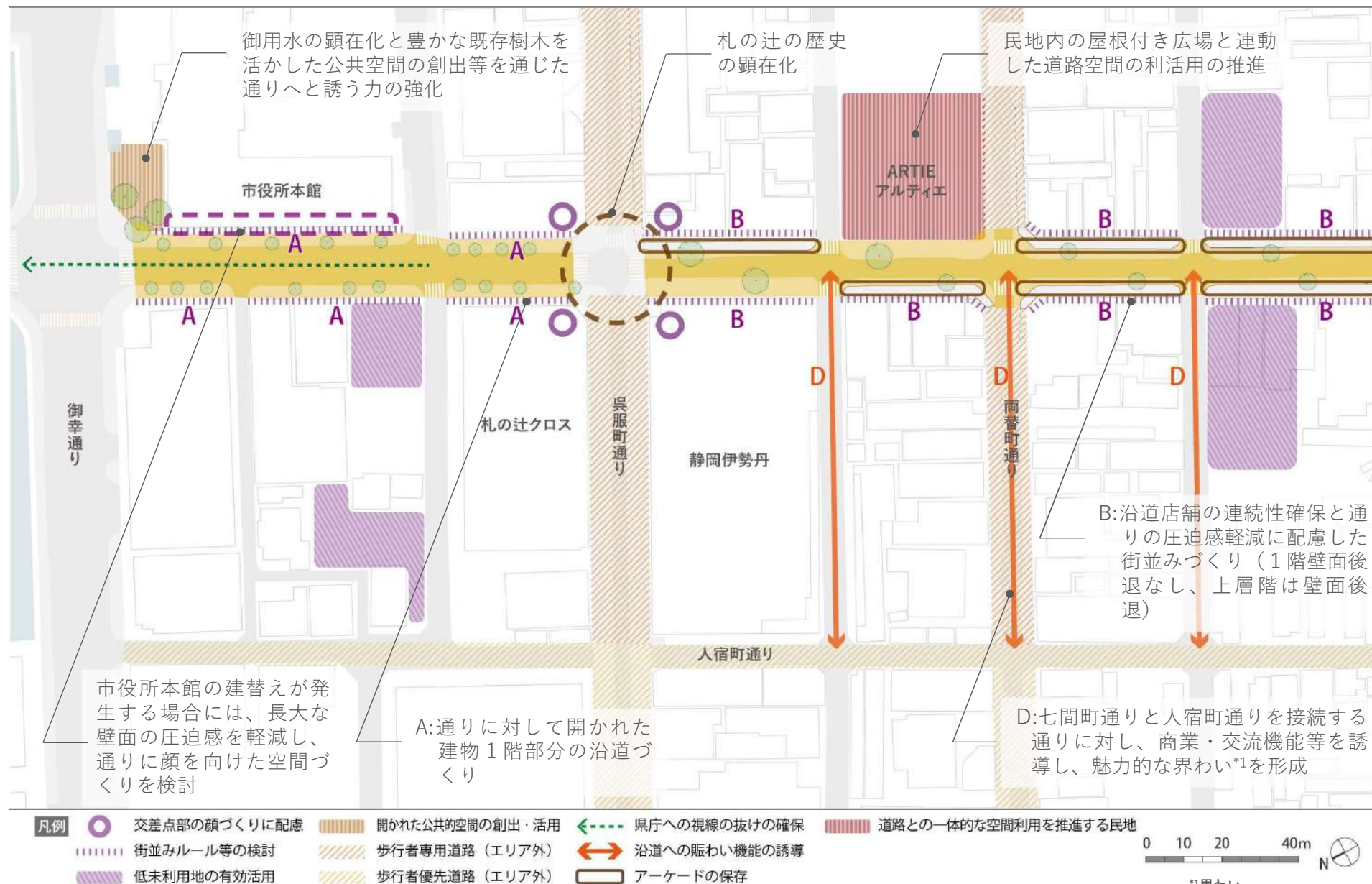
周辺の土地利用等を踏まえ、下図に示す区分、空間テーマに沿って空間づくりを推進します。



7-1.空間づくりの方針

エリア共通の方針

- ベンチ・オブジェ等の保存
- 滞留空間と連動した身近な緑陰の確保
- 短時間利用を想定した路上駐輪場の分散配置
- 多様な滞留空間の設置
- 多様なイベント等に柔軟に対応可能な電源や給水設備等の用意



*1界わい
特徴のあるまとまった区域

7-1.空間づくりの方針

エリア共通の方針

- ベンチ・オブジェ等の保存
- 滞留空間と連動した身近な緑陰の確保
- 短時間利用を想定した路上駐輪場の分散配置
- 多様な滞留空間の設置
- 多様なイベント等に柔軟に対応可能な電源や給水設備等の用意



7-2.空間づくりの方針

人の流れを誘導し、商店街へとつなぐ回遊促進ゾーン

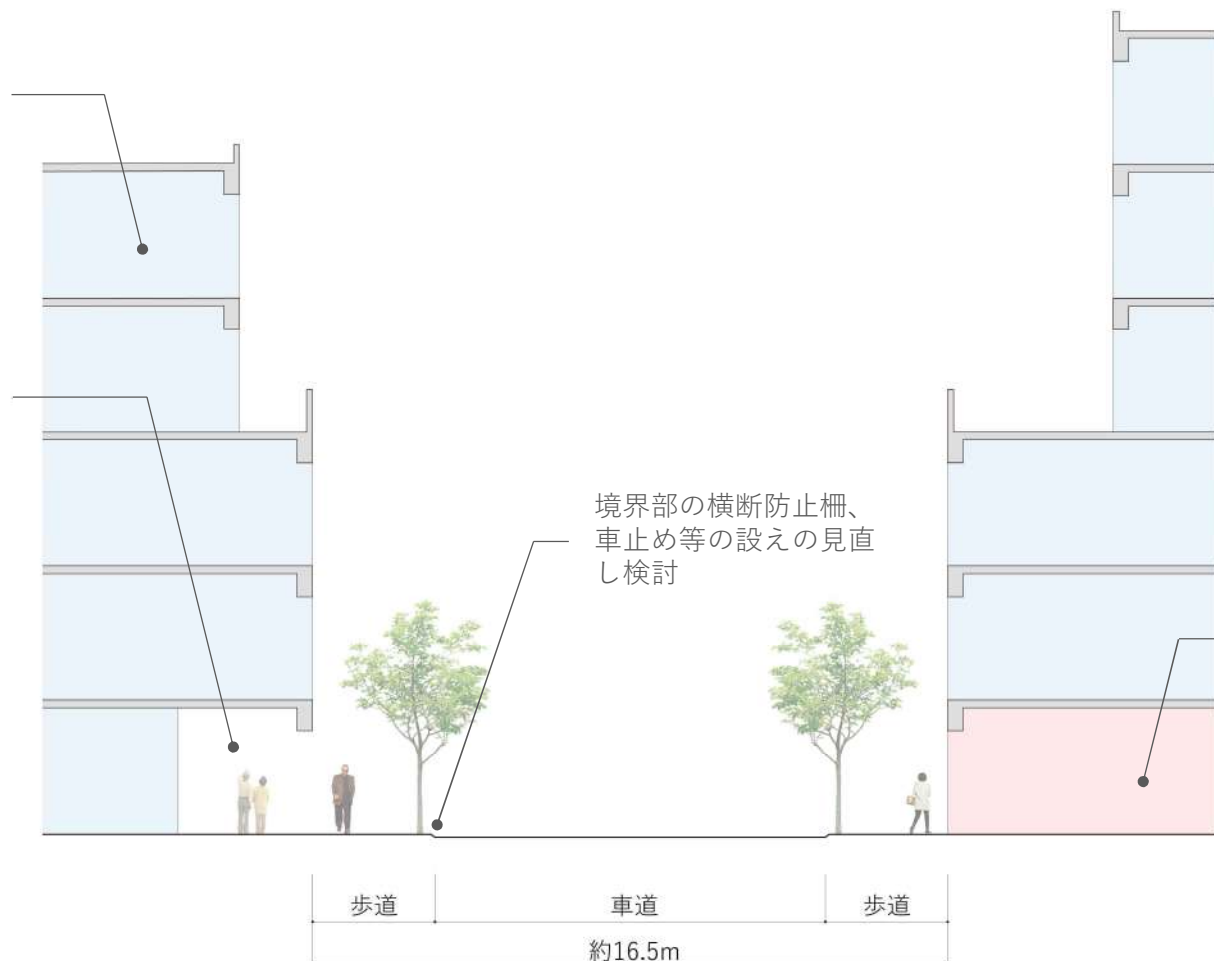
- 商店街から県庁、駿府城公園へ相互に人の流れを誘導する歩行者中心の歩きやすい空間を創出します。
- 七間町通りに面した建物の更新にあたっては、通りへの閉鎖的な設えや駐車場出入口の設置を避け、表通りに相応しい構えとします。

市役所本館の建替えが発生する場合には、高層部を壁面後退し、圧迫感を低減するとともに眺望の広がり確保を検討

通りに対して親しみやすく、開放感のある低層部の構えの実現

境界部の横断防止柵、車止め等の設えの見直し検討

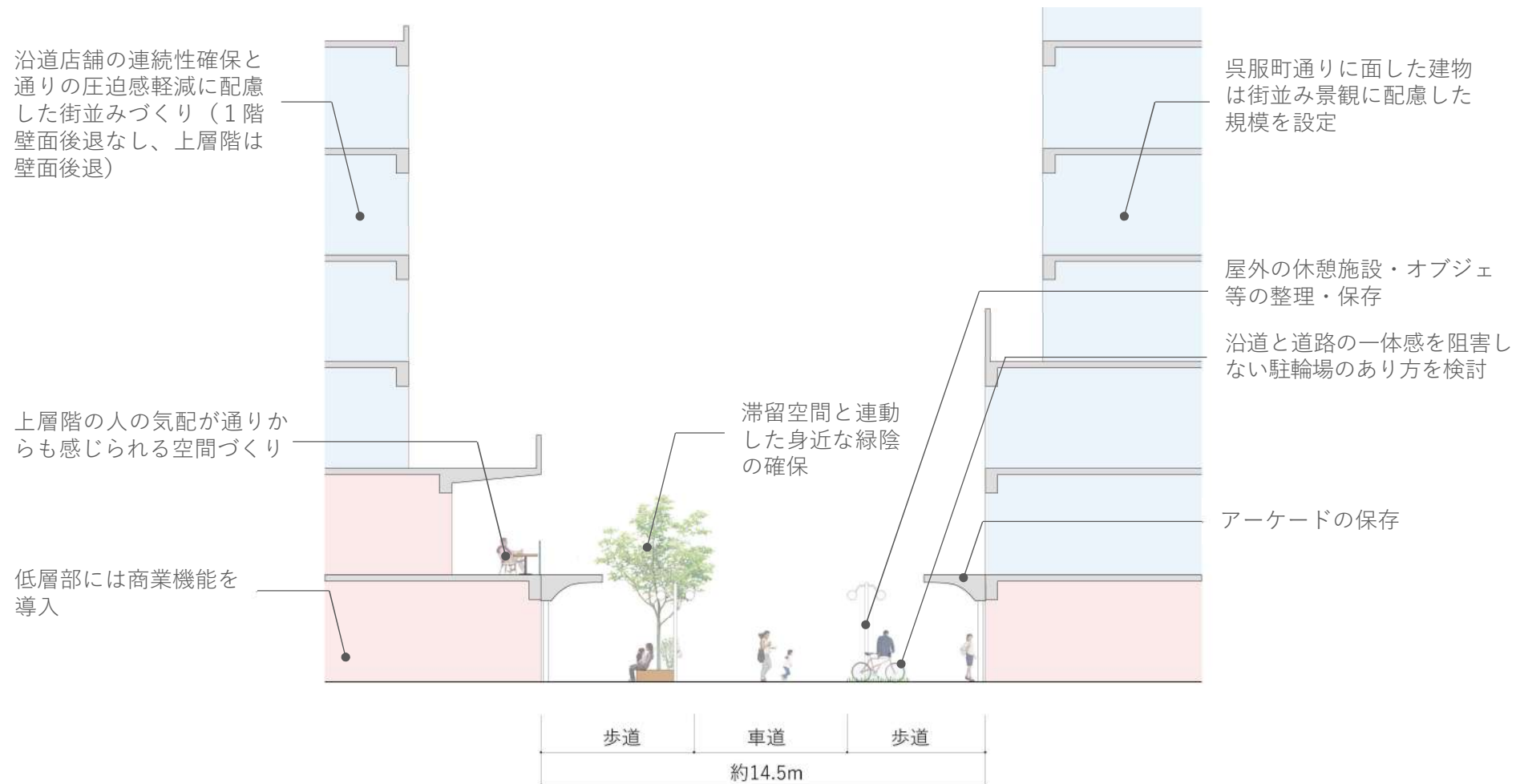
低層部は通りに顔を向けた空間づくりを検討



7-2.空間づくりの方針

沿道の商業機能とイベント活用により、子連れを中心に活気を感じるゾーン

- 空き店舗、活用されていない土地の活用を推進し、店舗等が連なり、子どもが日常的に遊ぶことのできる活気のある空間を創出します。
- 緑陰のある滞留空間の創出や路上駐輪場のあり方の見直し、不要な設置物の撤去等を通じて、沿道と通り全体が一体となった利活用の素地を整えます。

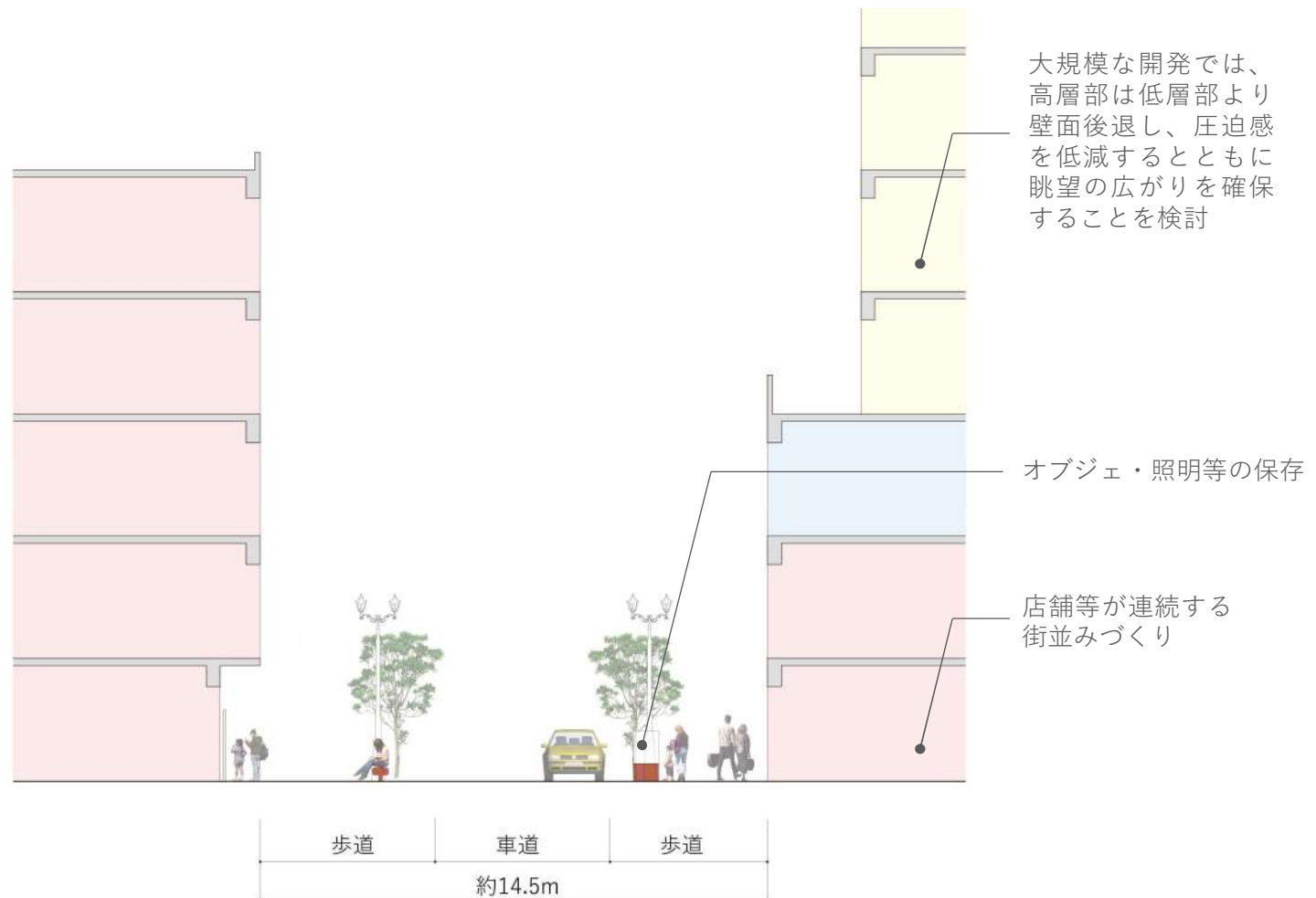


7-2.空間づくりの方針

人宿町人情通りやCCCとの連携を推進するゾーン

- 個性ある店舗や看板が連なり、人宿町人情通りとの連続性が感じられる歩いて楽しい空間を創出します。

沿道建物と道路空間の
関係づくり



7-3.空間づくりの方針

七間町通りと人宿町通りを接続する
通りに対し、商業・交流機能等を誘
導し、魅力的な界わい*1を形成

建物高層部は壁面後退を行い、
圧迫感を低減するとともに眺
望の広がり確保

滞留空間と連動した
身近な緑陰の確保

上層階の人の気配
が通りからも感じ
られる空間づくり

沿道と道路の一体感を阻害し
ない駐輪場のあり方の検討



ベンチ・オブジェ等の
整理・保存

交差点に向けて店舗の出入口
や開かれた空間を確保

低層部は壁面後退を行わず、
商業機能を導入し、沿道店舗
の連続性を確保

店舗の連続性に配慮し駐車場出入口や住宅出
入口は七間町通りを直交する通りに面して配
置

*1界わい
特徴のあるまとまった区域

8. 将来像

個性豊かな店と文化にふれ、
親子で回遊を楽しむ新しい「七ぶら」文化の醸成

